

東駿河湾都市圏都市交通マスタープラン 交通施策の進捗状況

【R4.3時点】

東駿河湾都市圏が目指す都市交通像			取組件数	うち完了
交通・観光の要衝として 活発な交流を生み出し 活力、安全・安心を支える交通ネットワーク			287	136
方針Ⅰ ◆拠点集約型都市構造の実現に向けた交通体系の確立			119	47
活力	戦略1	都市圏の骨格軸の形成	25	13
	戦略2	都市拠点の魅力向上につながる交通施策の展開	60	24
	戦略3	地域間の連携を確保する交通基盤の整備	34	10
方針Ⅱ ◆安全・安心で快適な生活を支える交通体系の確立			114	57
安全・安心	戦略4	高齢者をはじめ誰もが便利な移動手段の確保	38	25
	戦略5	健康で文化的な暮らしを支える交通施策の展開	61	26
	戦略6	災害に強く安心して移動できる交通施策の展開	15	6
方針Ⅲ ◆交流促進・連携強化による観光を支援する交通体系の確立			54	32
交流	戦略7	高速・広域交通ネットワークの活用	10	6
	戦略8	観光交通に対応した交通施策の展開	44	26

新東名高速道路、スマートICの整備促進

戦略①

戦略⑦

■新東名高速道路 概要

- ・事業主体：中日本高速道路(株)
- ・区間：東京～名古屋市
- ・延長：約330km(うち県内約165km)
- ・設計速度：120km/h(一部100km/h)
- ・6車線(暫定4車線)

■新東名高速道路の役割

- ・新名神と連携した国土の大動脈
- ・現東名の渋滞解消
- ・災害、事故発生時の迂回路、緊急輸送路
新東名は山側を通過し、東海地震や津波の被害を受けにくい

スマートインターチェンジ

県内全15箇所 設置箇所数 全国第1位
 県内全14箇所 供用箇所数全国第1位
 <供用中 14箇所 事業中 1箇所>

■期待される効果

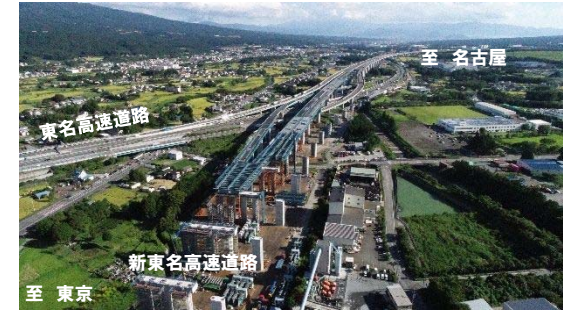
- ①災害発生時に迅速な物資輸送や救援活動が実現可能に
- ②救急医療機関への搬送時間が短縮
- ③地域産業の活性化
- ④周辺観光施設へのアクセス向上による観光客の増加



日本平久能山スマートIC
令和元年9月開通(静岡市)

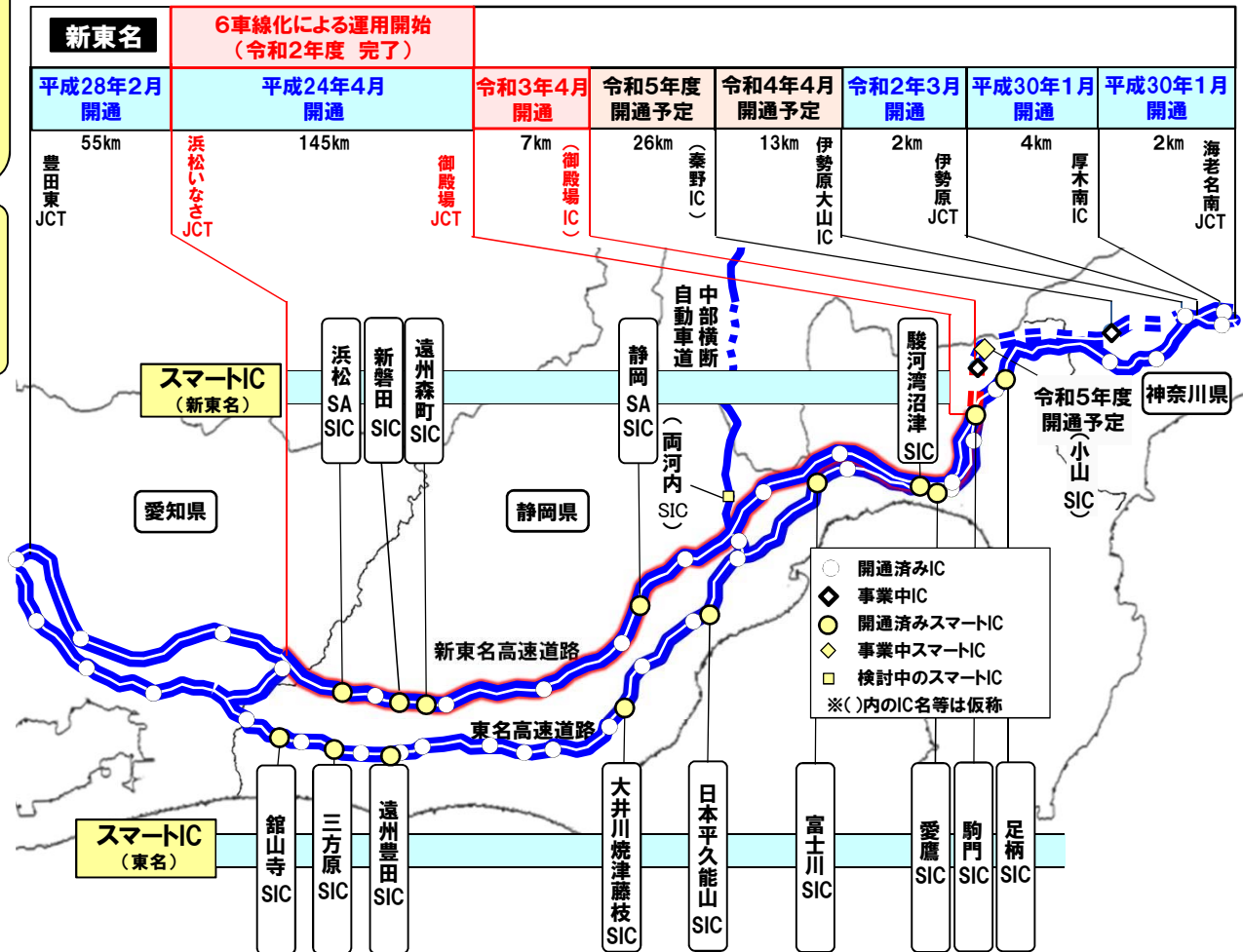


新東名 鎧田沢橋付近(富士市)



新東名 御殿場JCT付近(御殿場市駒門)

新東名高速道路・スマートICの概要図



みしま公共交通マップの作成

戦略①

事業者や市が各自で作成しているバス路線図を集約すると共に、タクシーや鉄道の情報も掲載した「みしま公共交通マップ」を作成し、公共交通の利便性の向上を図る。

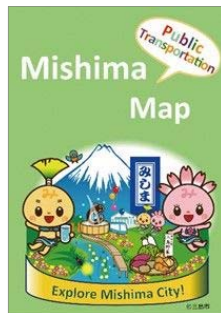
■全域版



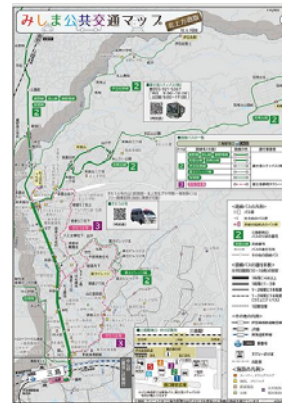
■年少者の将来の公共交通の利用につなげるため、絵本作家版を作成



■観光版 (英語)



■地域版



■「みしま公共交通マップ」にリンクするQRコードシールをデジタルサイネージ、電車のドア、バス停などに貼付

▼QRコードシール



▼「みしま公共交通マップ」にリンク



事業概要

- ・事業主体: 三島市地域公共交通網形成協議会※
- ・事業期間: 2019(R1)~2022(R4)年度
- ※国、県、三島市、交通事業者及び市民などで構成

沼津駅南口バスターミナルの行き先方面別乗り場への再編

戦略①

沼津駅南口駅前広場は、バス事業者ごとに複数の乗り場があり、わかりにくさを解消するため、行き先方面別に乗り場を集約するとともに、路線の集約、カラーリングや方面が近い路線は隣同士に配置するなど、わかりやすく利用しやすい環境に整える。

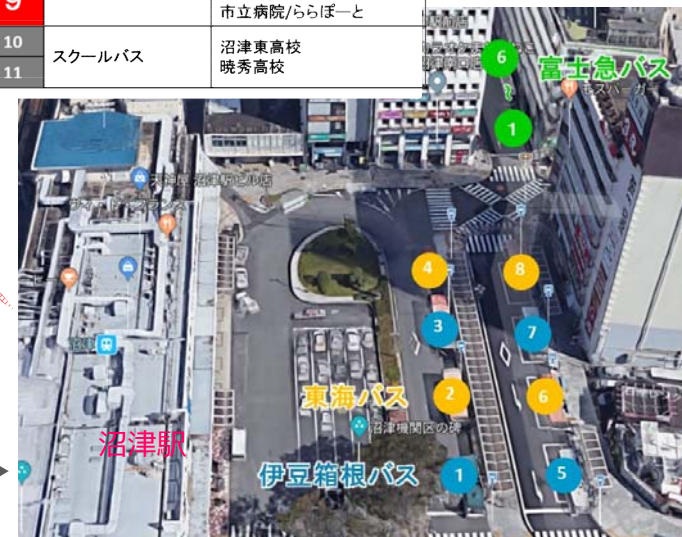


乗り場	方面	行き先
1	沼津港方面	沼津港 明電舎
2	我入道・ 下香貫方面	外原温水プール 我入道循環 木の宮循環/下香貫循環
3	西浦・ 伊豆長岡駅方面	多比/伊豆長岡駅 木負/江梨/戸田 大瀬岬(江梨乗継)
4	大平方面	沼商/大平車庫/大平
5	清水町方面	三島駅/三島田町駅 静岡医療センター循環
6	大岡方面	三島駅 大岡循環 緑ヶ丘循環/北市内循環
7	門池・ 免許センター方面	高尾台/免許センター あしたか運動公園 拓南東/沼津ゴルフ場 北小林/がんセンター
8	ららぽーと・ 市立病院方面	市立病院/ららぽーと 柳沢/東平沼
9	片浜・原方面	原団地/東田子の浦駅 市立病院/ららぽーと
10	スクールバス	沼津東高校 暁秀高校
11		

▲【再編後のバス乗り場】

全てのバス乗り場をターミナル内に集約
方面別にカラーリング

【再編前のバス乗り場】▶
事業者毎の乗り場



裾野駅周辺地区において、豊かな自然と魅力的な文化環境を備えた市民の交流拠点を創造すると共に、活気ある商業地と快適で利便性の高い住宅地を整備し、裾野市の玄関にふさわしい中心市街地の形成を図る。

事業概要

- ・事業主体：裾野市
- ・施行箇所：裾野市佐野、平松、二ツ屋
- ・施行面積：約17.6ha
- ・総事業費：約220億円
- ・事業期間：2003(H15)～2030(R12)



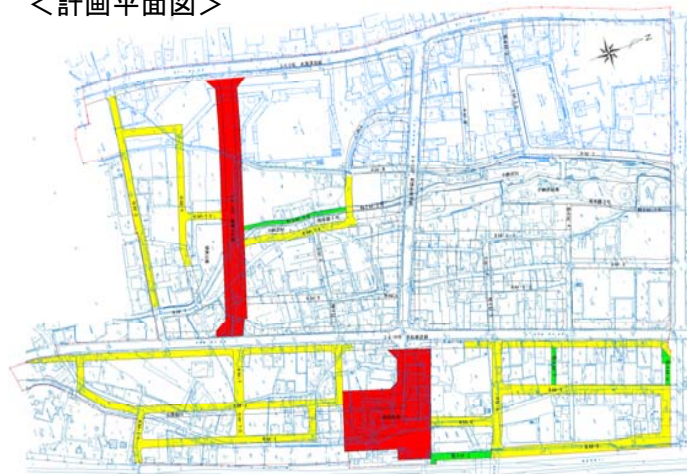
<(都)桃園平松線>

桃園平松線の全面開通により、市街地の西側を通る水窪深良線と東側を通る平松新道線へのアクセスが容易になりました。(令和3年11月供用開始)

位置図



<計画平面図>



<裾野駅西口駅前広場>

新しい駅前広場は広い歩行者空間が確保されたほか、バリアフリーに対応したスペースが整備され、どなたにも安全で快適に利用していただけるようになりました。(令和3年3月供用開始)

都市拠点である沼津駅周辺の中心市街地と、観光交流拠点である沼津港について、新たなモビリティツールを導入するなど、拠点間の結びつきを強化することにより、にぎわいの波及を目指す。



eCOM10

R1:EVバス本格運行開始 (R2.3~)

- ▲沼津駅～沼津港 (さんさん通り直通)
- ▲運行事業者 伊豆箱根バス株式会社
- ▲運賃は170～200円、6往復/日の運行



H30:EVバス試験運行

平成30年10月6日 - 11月4日

eCOM8

公共交通の利便性や快適性を高め利用率の向上を図るため、バスの待ち合い環境改善策としてバス停に待合いベンチを設置する社会実験を実施。利用者の意向把握によりその効果を検証するとともに、待ち合い環境の将来的な改善策について検討を実施

I 改善が必要なバス停の抽出

抽出視点…比較的乗降者が多い
 現在ベンチが設置されているが劣化が激しい
 ベンチを設置できるスペース、要件がある等



II 社会実験の実施(町内13箇所)

ベンチの新設・取替の実施



III 意向調査

ベンチの設置・取替後の利用者の意向調査、整理、分析



IV 特に待ち合い環境の整備改善が求められるバス停の抽出

待ち合い環境として特に改善が必要な箇所を抽出
 抽出視点…乗降者が多い
 ベンチの設置・取替以外の対策が必要
 上記対策の実現性の可能性があるスペース、要件がある等



V 現地調査の実施、待ち合い環境整備案の検討



整備イメージ平面図



整備イメージ

社会実験



ベンチ設置前



ベンチ設置後

幹線街路の整備により都市連携軸が形成され、駅やインターチェンジへのアクセスが向上

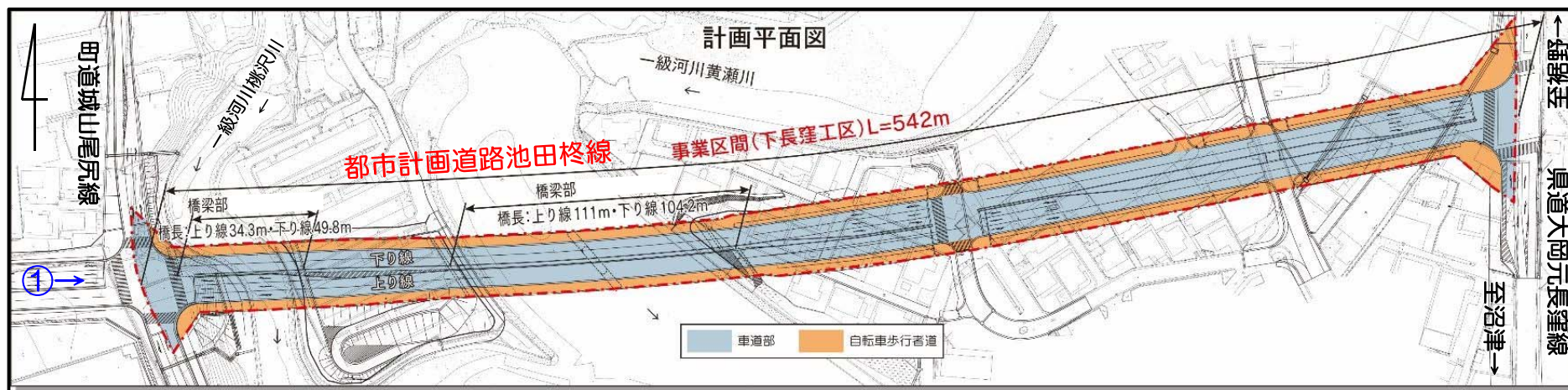
事業概要

- ・事業主体：静岡県
- ・事業箇所：長泉町下長窪～下土狩
- ・計画延長：542m
- ・計画幅員：全幅25m、車線部13m(4車線)
- ・事業費：約83億円
- ・事業期間：2002(H14)～2020(R2)

位置図



長泉町
下長窪～下土狩

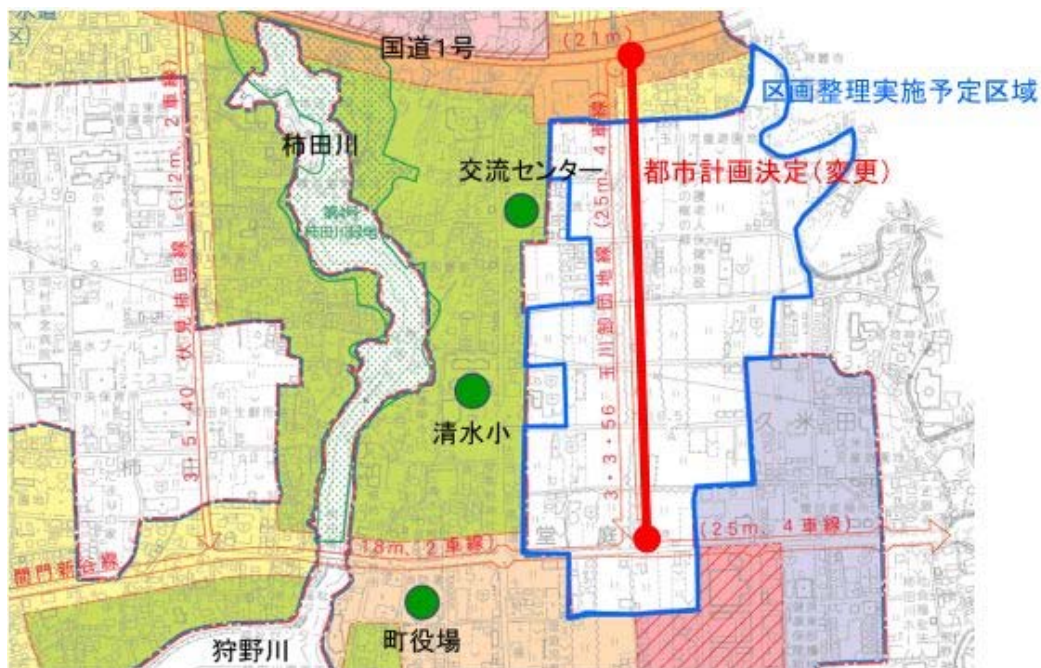


玉川卸団地線周辺地域の面整備の検討

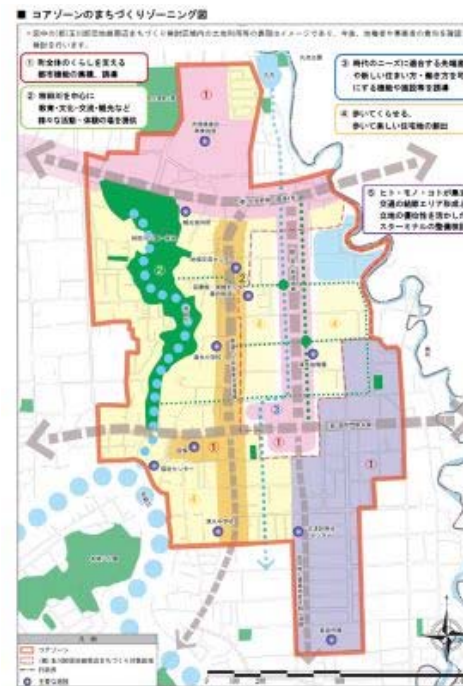
都市計画道路玉川卸団地線の整備に併せ、地域の住民との合意形成を進めながら土地区画整理事業等の都市基盤整備事業による当該道路周辺地域の市街化編入を目指すとともに、立地適正化計画により都市機能と居住の誘導を図り、町の核となる市街地の形成を図る。

また、社会経済情勢の変化を踏まえた都市計画道路のあり方を明らかにし、適切な整備を進めるため、令和元年に都市計画道路の見直し方針を策定し、これからの時代を見据えた道路ネットワークの構築を図るため、玉川卸団地線の区域の都市計画決定（変更）を行った。

土地区画整理事業のイメージ



玉川卸団地線周辺の土地利用のイメージ



公共交通を身近に感じてもらい、利用促進に繋げることを目的に地域の交通事業者と協力してイベント（GOTEMBA BUS FES（ごてんばバスフェス））を開催
バスと綱引きやオリジナル乗車券作りなど普段体験できないコーナーのほか、無料のミステリーツアーを企画するなど、公共交通に触れ合う機会を創出

事業概要

- ・事業主体：御殿場市地域公共交通協議会
（事務局 御殿場市）
- ・協力企業：富士急モビリティ(株)、
箱根登山バス(株)、
富士急静岡タクシー(株) 等
地域に関係する交通事業者
- ・事業期間：2019年10月～
- ・その他：毎年10月末頃開催
2021年 3回目



高齢者等の外出(社会参加)機会の拡大や、買物・通院の困難さを解消することを目的として、路線バス等が運行していない地区と最寄り駅を接続する公共交通システムであるデマンド式の乗合タクシー制度を導入、本格運行

事業概要(本格運行の経緯)

立花台・星和地区及び立花地区において、どのように自らの生活の足を確保するかという考えのもと、実際の利用者である地域住民と長期にわたり検討を重ね、地域住民・事業者・行政のそれぞれが持つ役割を連携・協力して予約型乗合タクシー実証運行を実施した。



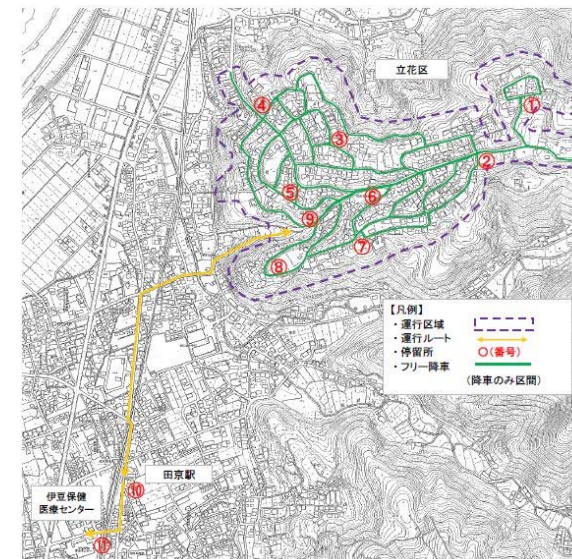
位置図



運行概要

- ①星の花号 (立花台・星和地区)
実証運行期間 平成27年5月18日～11月17日
本格運行開始 平成28年5月30日～
- ②立花Go! (立花地区)
実証運行期間 令和元年10月1日
本格運行開始 令和2年7月1日～

立花地区予約型乗合タクシー(区域図)



下土狩駅前広場の整備

戦略①

戦略②

戦略④

戦略⑧

JR御殿場線下土狩駅前広場の整備により、利用者の利便性の向上及び交通結節点の機能強化を図る。(都市構造再編集中支援事業の基幹事業として実施)

事業概要

- ・ 事業主体：長泉町
- ・ 施工箇所：長泉町下土狩駅前
- ・ 整備面積：約1,400 m²
- ・ 事業費：約14.5百万円
(設計費のみ)
- ・ 設計期間：2021(R3)
- ・ 工事期間：2023(R5)～2024(R6)

現状



【ワークショップの状況】



整備の内容

舗装の美装化、乗降場の屋根の新規設置
ベンチの整備、乗降場の段差の改善等

↓
改修イメージ



- ・ 計3回のワークショップを開催し、現状の課題と将来像について議論しました。
- ・ 利用しやすいロータリーの施設配置について、グループで意見がまとめられました。

※設計段階であるため、今後変更の可能性があります。

足柄駅前広場整備事業

戦略①

戦略②

戦略④

戦略⑧

小山町の交通結節点となる足柄駅前広場の整備により、バスや一般車両の停車スペースと動線を明確化し、利用者の利便性が向上を図るとともに、駅前の空間に販売店舗が進出するなど、地域住民の憩いの場としても活用

位置図

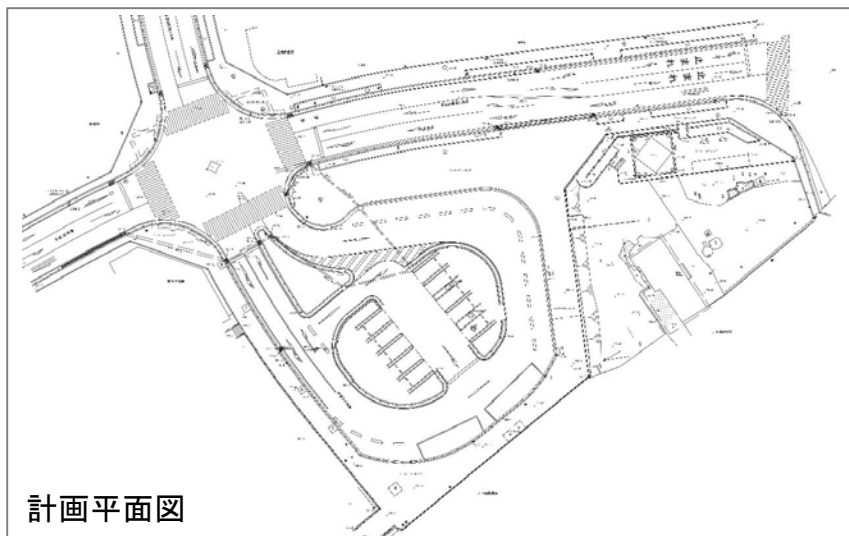


小山町
竹之下



事業概要

- ・事業主体：小山町
- ・施工箇所：小山町竹之下
- ・施工面積：約3,100㎡
- ・事業費：約30百万円
- ・事業期間：2020（R1）
- ・その他：舗装工 A=1,479㎡
インターロッキング A=478㎡ 等

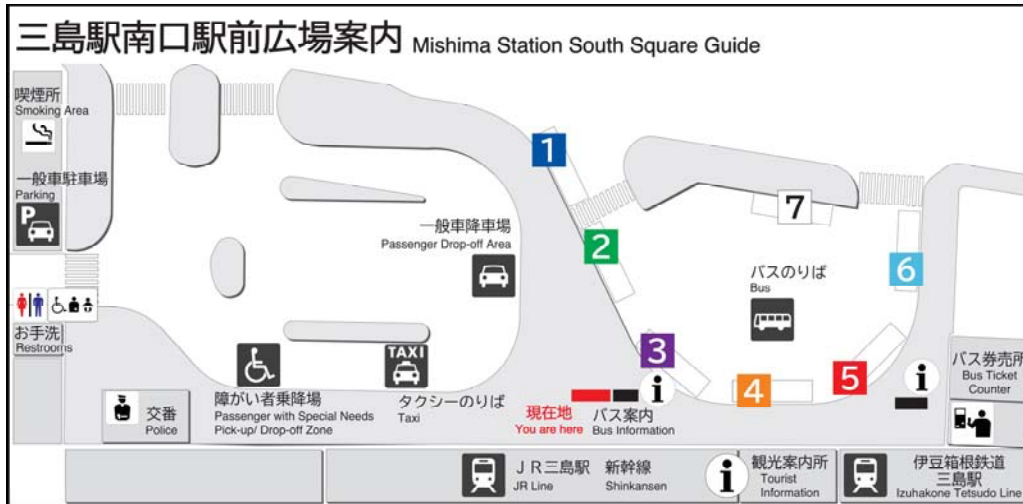


計画平面図

三島駅前広場のユニバーサルデザイン化

戦略⑤

三島駅前広場内の案内板表示に、ピクトグラムや英語併記とすることにより、同駅前広場や公共交通の利便性向上を図る。



事業概要

・事業主体

三島市(ハード整備)

三島市地域公共交通網形成協議会(配置・レイアウト検討)※1

東伊豆・中伊豆地域公共交通活性化協議会(バス時刻表案内板)※2

・事業期間: 2019(R1)年度

※1…国、県、三島市、交通事業者及び市民などで構成

※2…国、県、三島市を含む5市3町、交通事業者及び市民などで構成

道の駅・川の駅伊豆ゲートウェイ函南にそれぞれ自転車ポート等を設置することで、サイクリスト達の束の間の休憩と交流の場の創出を図る。

事業概要

- ・事業主体：函南町
- ・施工箇所：函南町塚本地内
- ・施工内容：自転車ポート等の設置
- ・事業期間：道の駅2箇所(H29～)
川の駅1箇所(H31～)
- ・その他 道の駅、川の駅それぞれ整備時に設置



位置図



国道136号土肥拡幅事業

戦略⑥

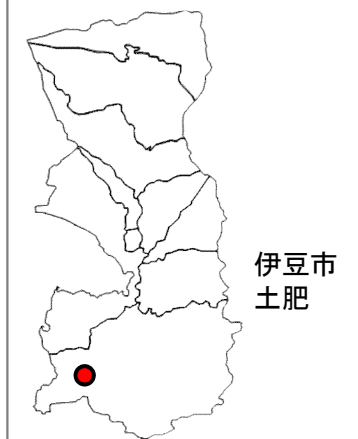
戦略⑦

当該箇所は道路幅員狭小の上、山間地特有のカーブが連続していましたが、本事業により、すれ違い困難な状況を解消し、円滑な交通を確保しました。

事業概要

- ・事業主体：静岡県
- ・事業箇所：伊豆市土肥
- ・事業延長：約1200m
- ・事業期間：2004(H16)～2018(H30)

位置図



土肥拡幅事業 L=約1.2km



整備前



整備後



新御殿場ICアクセス道路整備事業

戦略③

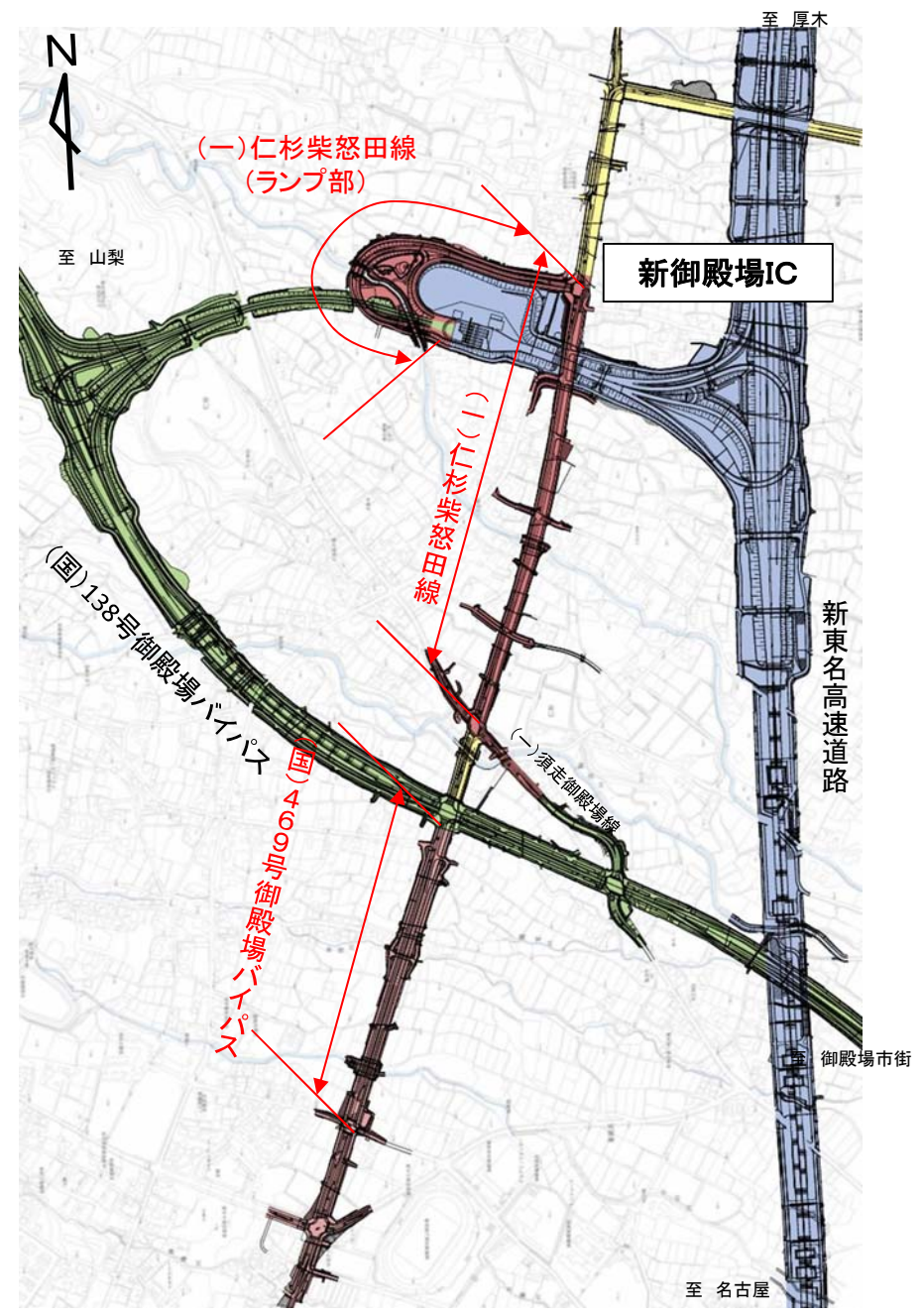
戦略⑦

御殿場市の観光交流人口は、本県で静岡市、浜松市に次ぐ第3位の規模であり、その数は年々増加しています。当路線の整備により、新東名高速道路と市内観光施設へのアクセス性が向上しました。



- 事業概要
- ・事業主体：静岡県
 - ・事業箇所：御殿場市柴怒田
 - ・事業延長
 - (一)仁杉柴怒田線：約1,480m
 - (国)469号御殿場BP：約500m
 - ・事業期間：2007(H19)～2021(R3)

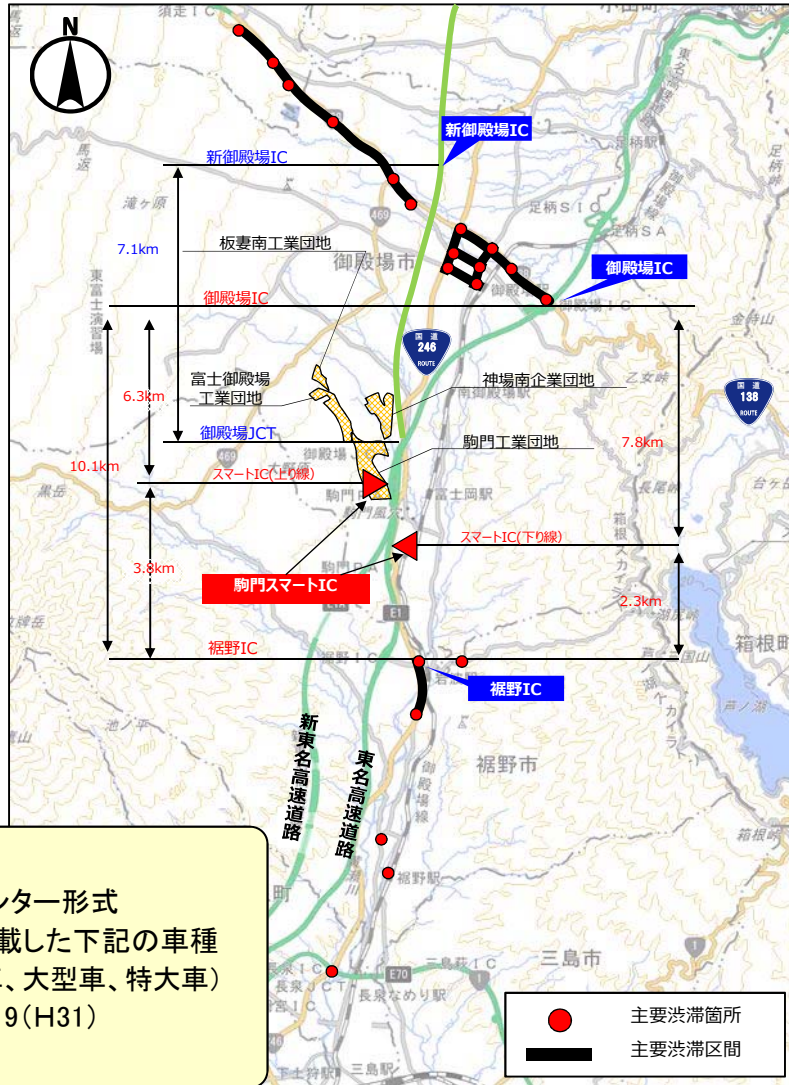
新御殿場IC((一)仁杉柴怒田線ランプ部)



東名高速道路 駒門スマートICの整備

戦略⑦

工業団地直結のスマートICにより、高速道路までのアクセス時間が短縮され、企業活動・物流の効率化が期待されるほか、内陸フロンティア推進区域に指定された「板妻南工業団地」への企業誘致促進に繋がる。



事業概要

- ・運用形態: 24時間 フルインター形式
- ・対応車種: ETC搭載器を搭載した下記の車種 (軽自動車等、普通車、中型車、大型車、特大車)
- ・事業期間: 2016 (H28) ~ 2019 (H31)
- ・供用開始: 2020年3月28日

伊豆市のベロドROOM等で開催された東京2020オリンピック自転車競技の開催にあたり、修善寺駅発着のシャトルバス利用客を安全かつ速やかに誘導するため、修善寺駅周辺において、交通規制を実施した。

シャトルバス運行概要

(修善寺駅⇄ベロドROOM)

令和3年7月26日(月)、27日(火)、8月2日(月)～8日(日)

合計 9日間

利用者数：約3,300人 バス運行台数：9台/日

交通規制の内容 (下図参照)

- ・ 車両通行止め
- ・ 車線規制に伴う一方通行規制



交通規制の実施状況



矢羽根型路面表示整備事業

戦略②

戦略⑧

東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技の県内開催決定を受け、サイクリストの安全・快適な走行環境の確保を目的として、北駿地域及び伊豆地域における自転車走行空間の整備について関係機関と検討を進め、矢羽根型路面表示を整備しました。

矢羽根型路面表示は、自転車の走行位置を示し、ドライバーへ自転車の走行を注意喚起するといった役割があり、自転車利用の活性化が見込まれます。



提供 小山町
(撮影者 赤木和敏)

北駿地域矢羽根設置状況(東京2020オリンピック男子ロード競技時)



伊豆地域矢羽根設置状況